

- 凡例
- 利活用可能施設
  - 利活用可能施設を含む敷地
  - 関連施設 (観光等)
  - 商業集積ゾーン
  - 観光祭、イベント系のゾーン
  - 文教系のゾーン
  - 市民交流、情報発信系のゾーン

消防本部・城北P  
図書館  
(図書館、(市民)美術館等)

- 郊外からの車でのアクセスが容易であり、十分な駐車場が確保できる。
- 公共交通利用 (徒歩) の場合、街なかや上野市駅から図書館までの距離が延び、途中に急な勾配がある。

だんじり会館  
(だんじり会館の更新)

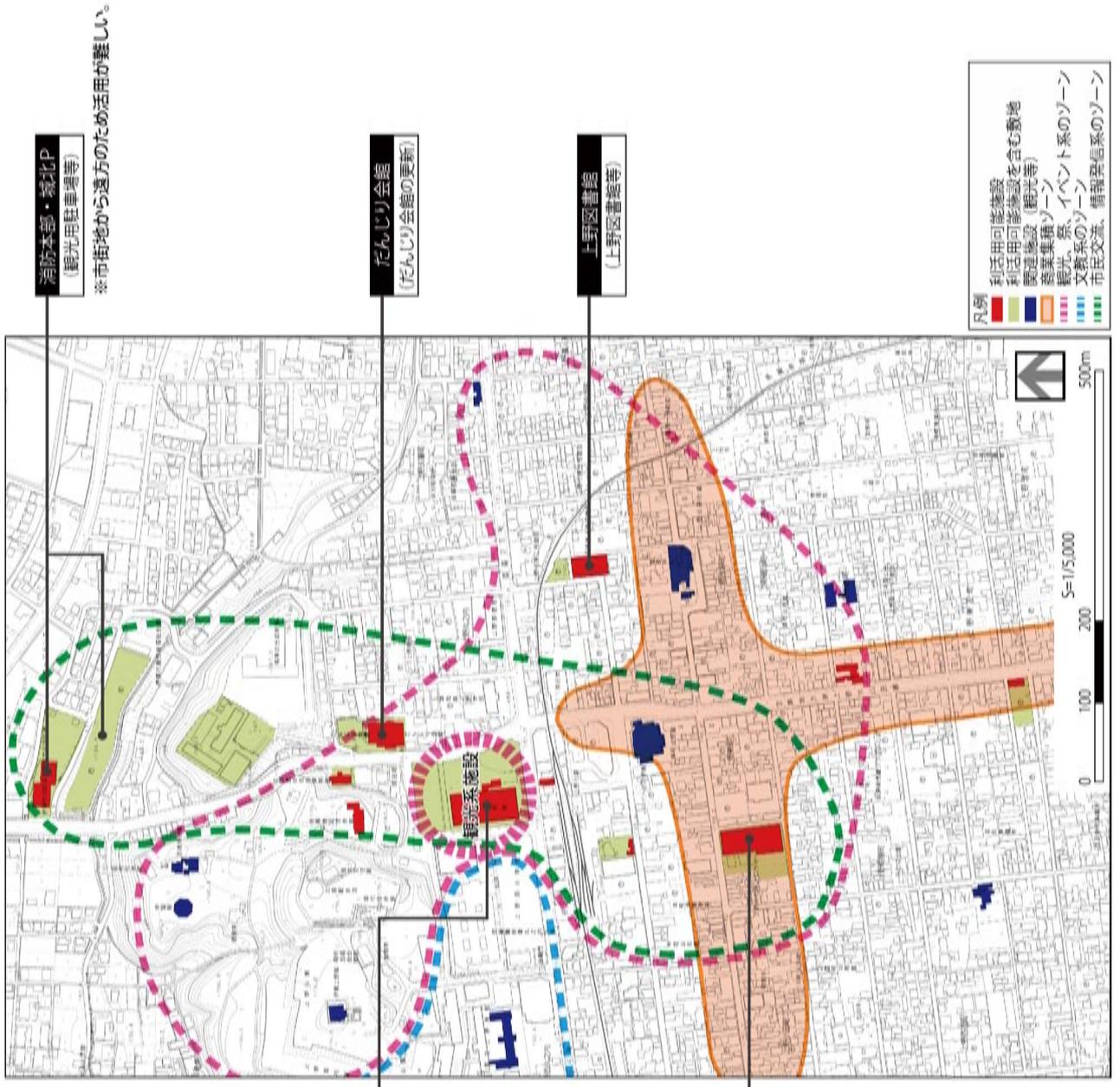
上野図書館  
芭蕉翁記念館  
(展示、学芸員室等)

- 近隣施設との連携で文化ゾーンを構築し、回遊を創出できる。
- 周辺道路が狭小であるため、来館者の安全確保に課題がある。

南庁舎  
観光施設  
(忍者関連、伝統産業展示体験、飲食等)

- 伊賀上野城等への観光の拠点となり、ここからの回遊ルートへの創出など観光施策に期待が持てる。
- 平日や夜間における周辺の賑わい創出が難しい。
- 週末を中心に、駐車場の混雑や不足が発生する。

上野ふれあいプラザ  
(伊賀名産品、地域物産等)



河防本郷・城北P  
(観光用駐車場等)  
※市街地から遠方のため活用が難しい。

たんじり会館  
(たんじり会館の更新)

上野図書館  
(上野図書館等)

南行合  
観光系施設  
(記念館、伝統産業展示体験、飲食等)

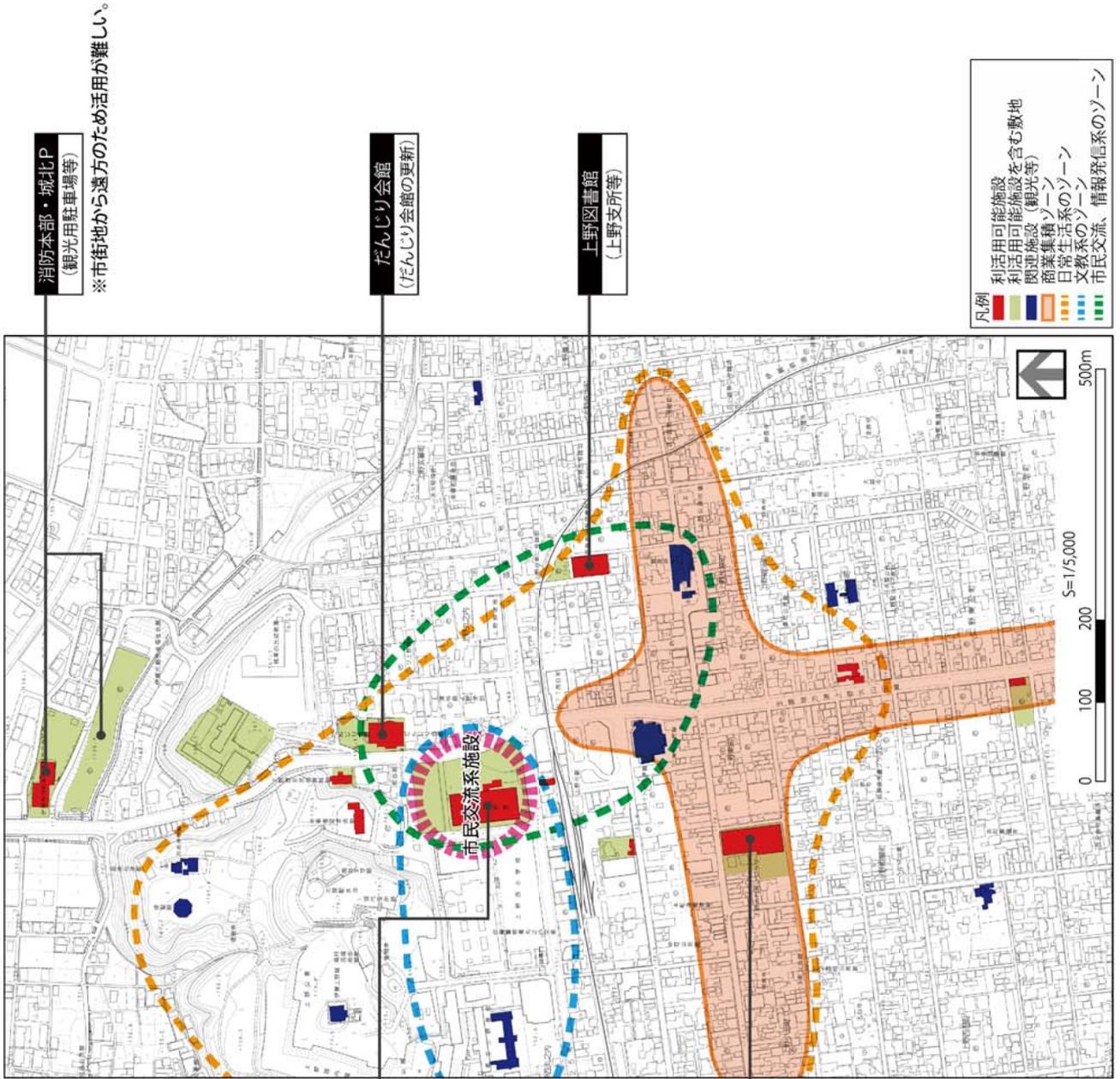
- 伊賀上野城等への観光の拠点となり、ここからの回遊ルートの創出など観光施策に期待が待てる。
- 平日や夜間における周辺の賑わい創出が難しい。
- 週末を中心に、駐車場の混雑や不足が発生する。

上野ふれあいプラザ  
図書館  
(図書館、(市民)美術館等)

- 街なかの市民や公共交通利用者にとってアクセスがしやすい。
- 現状の商業機能の存続を前提に、商業集積ゾーンの回遊性向上、賑わい創出につながる。
- 現状の商業機能の存続を前提とすると、活用可能な施設が2階以上となる。

凡例

■	利用可能施設
■	利用可能施設を含む敷地
■	復元施設 (観光等)
■	商業集積ゾーン
■	観光系ゾーン
■	イベント系のゾーン
■	文教系のゾーン
■	市民交流、情報発信系のゾーン



消防本部・城北P  
(観光用駐車場等)

※市街地から遠方のため活用が難しい。

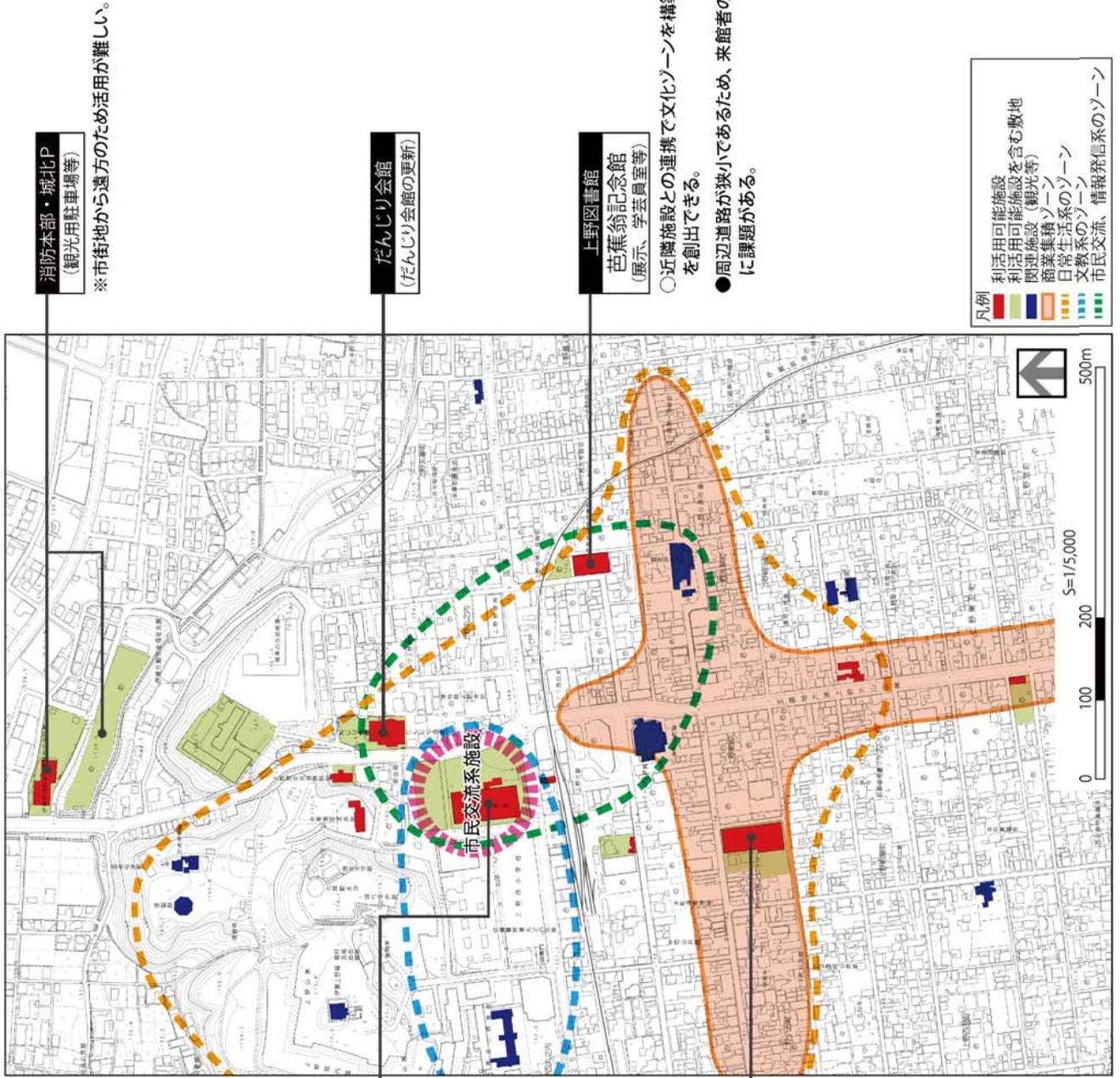
だんじり会館  
(だんじり会館の更新)

上野図書館  
(上野支所等)

南庁舎  
図書館 / 芭蕉翁記念館  
(図書館、展示、学芸員室等)

- 公共交通、車とともにアクセスしやすく、市民にとって集まりやすい場所となる。
- 市民に対して各資源を紹介する拠点となる。
- 観光施設が現状と変わらないので、観光を中心とした賑わい創出が難しい。
- 伊賀上野城、忍者博物館等観光施設との重複利用により、週末を中心に駐車場不足となる。
- 平日に時間帯によっては駐車場の混雑が発生する可能性がある。

上野ふれあいプラザ  
(スーパー、高齢者関連等)



消防本部・城北P  
(観光用駐車場等)

※市街地から遠方のため活用が難しい。

だんじり会館  
(だんじり会館の更新)

上野図書館  
芭蕉翁記念館  
(展示、学芸室等)

○近隣施設との連携で文化ゾーンを構築し、回遊を創出できる。

●周辺道路が狭小であるため、来館者の安全確保に課題がある。

- 凡例
- 活用可能施設
  - 活用可能施設を含む敷地
  - 関連施設(観光等)
  - 商業集積ゾーン
  - 日常生活系のゾーン
  - 文教系のゾーン
  - 市民交流、情報発信系のゾーン

南庁舎  
図書館  
(図書館、市民美術館等)

○公共交通、車ともにアクセスしやすく、市民にとって集まりやすい場所となる。

○市民に対して各資源を紹介する拠点となる。

●観光施設が現状と変わらないので、観光を中心とした賑わい創出が難しい。

●伊賀上野城、忍者博物館等観光施設との重複利用により、週末を中心に駐車場不足となる。

●平日に時間帯によっては駐車場の混雑が発生する可能性がある。

上野ふれあいプラザ  
(スーパー、高齢者関連等)

□分類（その1）に関するメリット・デメリットの整理

中心市街地の賑わい創出案について、「市民利用上の視点」「建築計画上の視点」「行政執行上の視点」からメリット(○印)、デメリット(●印)を次のとおり整理します。

	A-1案			A-2案			B-1案			B-2案		
	メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット
南庁舎 市民利用上の視点	○伊賀上野城等への観光の拠点となり、ここからの回遊ルートの創出など観光施策に期待が持てる	●平日や夜間における周辺の賑わい創出が難しい ●週末を中心に、駐車場の混雑や不足が発生する	○伊賀上野城等への観光の拠点となり、ここからの回遊ルートの創出など観光施策に期待が持てる	●平日や夜間における周辺の賑わい創出が難しい ●週末を中心に、駐車場の混雑や不足が発生する	○公共交通、車ともアクセスしやすく、市民にとって集まりやすい場所となる ○市民に対して各資源を紹介する拠点となる	●観光施設が現状と変わらないので、観光を中心とした賑わい創出が難しい ●伊賀上野城、忍者博物館等観光施設との重複利用により、週末を中心に駐車場不足となる ●平日に時間帯によっては駐車場の混雑が発生する可能性がある	○公共交通、車ともアクセスしやすく、市民にとって集まりやすい場所となる ○市民に対して各資源を紹介する拠点となる	●観光施設が現状と変わらないので、観光を中心とした賑わい創出が難しい ●伊賀上野城、忍者博物館等観光施設との重複利用により、週末を中心に駐車場不足となる ●平日に時間帯によっては駐車場の混雑が発生する可能性がある	○公共交通、車ともアクセスしやすく、市民にとって集まりやすい場所となる ○市民に対して各資源を紹介する拠点となる	●観光施設が現状と変わらないので、観光を中心とした賑わい創出が難しい ●伊賀上野城、忍者博物館等観光施設との重複利用により、週末を中心に駐車場不足となる ●平日に時間帯によっては駐車場の混雑が発生する可能性がある	○公共交通、車ともアクセスしやすく、市民にとって集まりやすい場所となる ○市民に対して各資源を紹介する拠点となる	●観光施設が現状と変わらないので、観光を中心とした賑わい創出が難しい ●伊賀上野城、忍者博物館等観光施設との重複利用により、週末を中心に駐車場不足となる ●平日に時間帯によっては駐車場の混雑が発生する可能性がある
建築計画上の視点	○建物を解体・新築することで、自由度の高い建築設計が可能となり、ニーズに応じた施設をつくらせることができる ○保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化的価値を有効に活用できる	●自由度が高い反面、基本計画の策定に相当の期間を要する ●活用方法に一定の制限がある	○建物を解体・新築することで、自由度の高い建築設計が可能となり、ニーズに応じた施設をつくらせることができる ○保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化的価値を有効に活用できる	●自由度が高い反面、基本計画の策定に相当の期間を要する ●活用方法に一定の制限がある	○建物を解体・新築することで、自由度の高い建築設計が可能となり、ニーズに応じた施設をつくらせることができる ○保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化的価値を有効に活用できる	●自由度が高い反面、基本計画の策定に相当の期間を要する ●活用方法に一定の制限がある	○建物を解体・新築することで、自由度の高い建築設計が可能となり、ニーズに応じた施設をつくらせることができる ○保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化的価値を有効に活用できる	●自由度が高い反面、基本計画の策定に相当の期間を要する ●活用方法に一定の制限がある	○建物を解体・新築することで、自由度の高い建築設計が可能となり、ニーズに応じた施設をつくらせることができる ○保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化的価値を有効に活用できる	●自由度が高い反面、基本計画の策定に相当の期間を要する ●活用方法に一定の制限がある	○建物を解体・新築することで、自由度の高い建築設計が可能となり、ニーズに応じた施設をつくらせることができる ○保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化的価値を有効に活用できる	●自由度が高い反面、基本計画の策定に相当の期間を要する ●活用方法に一定の制限がある
行政執行上の視点	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)	○合併特例債が活用できる ○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)
消防本部・城北P	○郊外からの車でのアクセスが容易であり、十分な駐車場の確保できる	●公共交通利用(徒歩)の場合、街なかや上野市駅から図書館までの距離が延び、途中に急な勾配がある	○郊外からの車でのアクセスが容易であり、十分な駐車場の確保できる	●公共交通利用(徒歩)の場合、街なかや上野市駅から図書館までの距離が延び、途中に急な勾配がある								

	A-1案			A-2案			B-1案			B-2案		
	メリット	デメリット	デメリット	メリット	デメリット	デメリット	メリット	デメリット	デメリット	メリット	デメリット	デメリット
上野 図書館	建築計画上の視点	○広い敷地が確保でき、自由度の高い建築設計が可能となる	●伊賀市洪水ハザードマップにおいて浸水想定危険地域に含まれる									
	行政執行上の視点	○合併特例債が活用できる										
上野 ふれあい プラザ	市民利用上の視点	○近隣施設との連携で文化ゾーンを構築し、回遊を創出できる	●周辺道路が狭小であるため、米館者の安全確保に課題がある									
	建築計画上の視点	○上野図書館の建物を有効活用することができる	●周辺環境の未整備に伴い、アクセスや駐車場の確保が難しい									
上野 ふれあい プラザ	行政執行上の視点	○合併特例債が活用できる										
	市民利用上の視点	○社会資本整備総合交付金が活用できる(観光交流機能に関する部分)										
上野 ふれあい プラザ	建築計画上の視点			○街なかの市民や公共交通利用者にとってアクセスがしやすい	●現状の商業機能の存続を前提とする	○現状の商業機能の存続を前提に、商業集積ゾーンの回遊性向上、賑わい創出につながる						
	行政執行上の視点			○合併特例債が活用できる	●駐車場を十分に確保できない	●活用する場合は建替となり、事業費が高くなる						

## □ 検討資料3

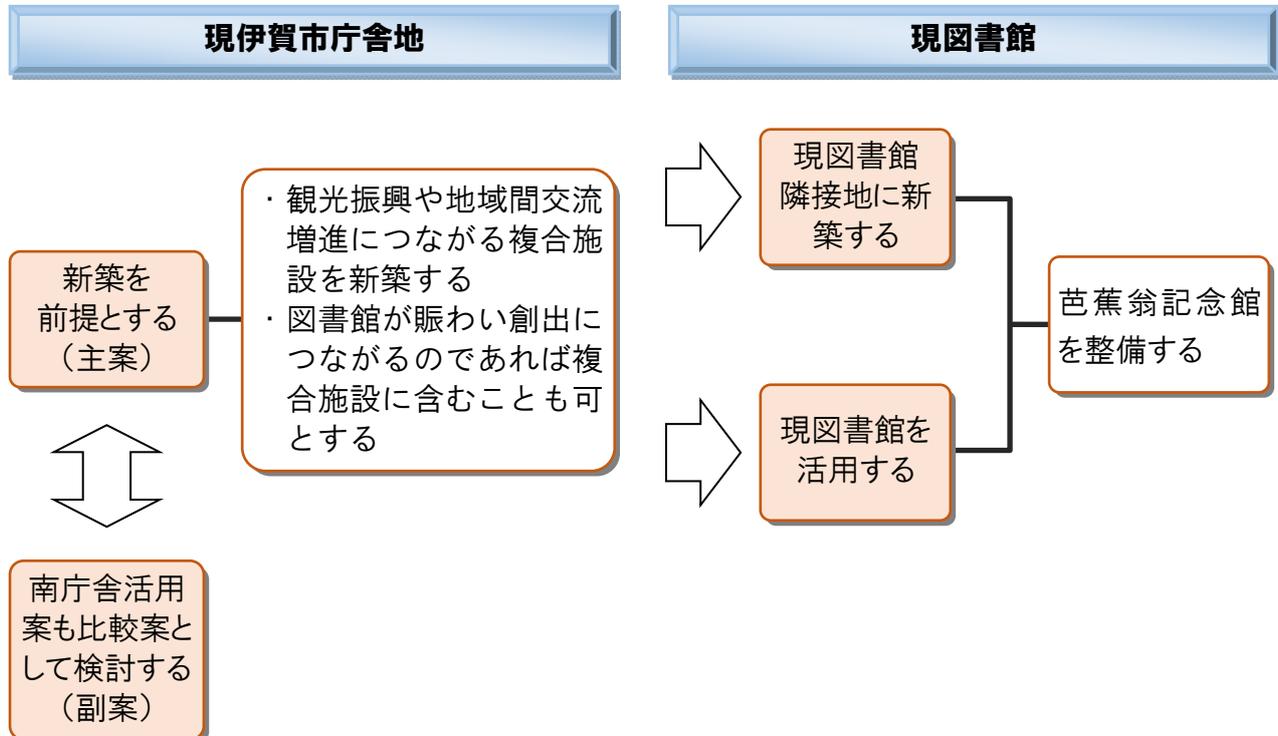
### (1) 賑わい創出案の検討（分類その2）

第4回協議会において10頁から16頁の分類（その1）による検討・協議を行いました。が、「観光を中心とする賑わい創出案」「市民生活を中心とする賑わい創出案」とともに支持する意見があり、より具体的な機能配置案に基づく分類が求められました。

そこで、第5回協議会では、事業費の削減や事業スケジュールの短縮のため、必要な機能の複合化を前提とした施設配置を行うこととし、賑わい創出の核となる現伊賀市南庁舎地を「新築」により活用するか、「既存建物」を活用するかにより、次の分類（その2）を提示し、検討・協議を行いました。

また、分類（その2）では、伊賀市南庁舎について、新築を主案、保存・活用を副案として「1-あ案」、「1-い案」、「2-あ案」、「2-い案」の4案を提示しています。分類（その2）の提示に際し、費用や事業スケジュールの比較に関する資料も提示しました。

現伊賀市南庁舎地を核とし、多くの人々が訪れ、観光振興や地域間の交流増進につながる施設を整備します。芭蕉翁記念館は、他の関連施設との連携やまちなかでの芭蕉ゾーン形成を目指し、現図書館やその隣接地での整備を検討します。

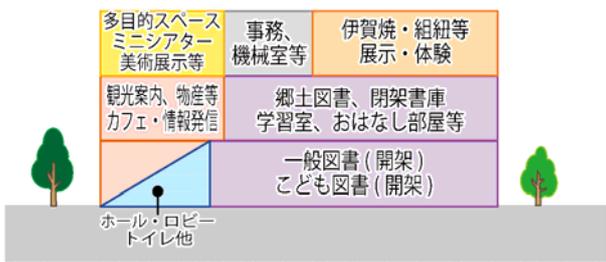
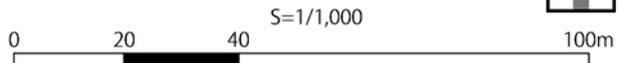


1-あ案 (現南庁舎地) 新築 - (現図書館) 新築 (主案①)

北庁舎跡に複合施設を新築し、南庁舎は解体・除却する



断面イメージ



現図書館の隣接地に芭蕉翁記念館を新築し、図書館は解体・除却する



1-あ案 (主案①) 規模と整備費

北庁舎跡に複合施設を新築し、南庁舎は解体・除却する				
現図書館の隣接地に芭蕉翁記念館を新築し、図書館は解体・除却する				
<b>整備費概算</b>				
現敷地	配置公共施設	規模 (㎡)	駐車台数	事業費 (百万円)
庁舎	図書館 (複合)	6,000	約 240 台	新築 2,440
図書館	芭蕉翁記念館	2,150	約 50 台	新築 835
				合計 3,275

図書館 (複合)

施設名称	室名	室面積 (㎡)	面積合計	単価 (千円)	整備費 (百万円)
北庁舎跡に図書館新築	図書	3,040	各提言等からの面積 3,600㎡	320	1,386
	観光案内、物産、情報発信等	450		5	
	事務、機械室、廊下等	110		450	
	伊賀焼、組紐 展示・体験 カフェ等 ミニシアター、美術展示等 共通共用	1,000	各提言等からの面積 2,400㎡	280	876
		260		5	
		420		450	
720	2,400㎡	450			
南庁舎解体			5,927㎡	三重県建設技術センター 30	178
				合計	2,440

芭蕉翁記念館

施設名称	室名	室面積 (㎡)	備考	単価 (千円)	整備費 (百万円)	
現上野図書館隣に →芭蕉翁記念館新築	展示	510	各提言等からの面積 2,150㎡	JBCI(建築工事費調査)、 青森市文化観光交流施設 他事例 280	785	
	交流・発信	490				5
	書庫・学芸員室等	390				450
	共用・サービス等	760				450
現上野図書館 解体			1,678㎡	三重県建設技術センター 30	50	
用地買収						
				合計	835	

全合計	3,275
-----	-------

※整備費は単価の平均値と各施設面積により算出しています。

1-あ案 (主案①) 工程計画

北庁舎跡に複合施設を新築し、南庁舎は解体・除却する  
 現図書館の隣接地に芭蕉翁記念館を新築し、図書館は解体・除却する

施設	内容	H28 年度	H 29 年度	H 30 年度	H 31 年度	H 32 年度	H 33 年度	H 34 年度
主な流れ	公共施設基本計画	[黒線]						
				★新庁舎完成				
現南庁舎	基本計画	[黒線]						
図書館 (複合)	基本設計		[黒線]					
	実施設計			[黒線]				
	機能移転			[黒線]	[黒線]			
	解体・除却			[黒線]	[黒線]			
	建設				[黒線]	[黒線]		
	引渡等					[黒線]		
	駐車場等						[黒線]	
現図書館	用地買収	[黒線]						
芭蕉翁 記念館	基本計画	[黒線]						
	基本設計		[黒線]					
	実施設計			[黒線]				
	機能移転				[黒線]	[黒線]		
	解体・除却				[黒線]	[黒線]		
	建設				[黒線]	[黒線]		
	引渡等					[黒線]		
	駐車場等						[黒線]	

← 合併特例債期限

庁舎の移転時期に影響されずに着工可能

★ オープン

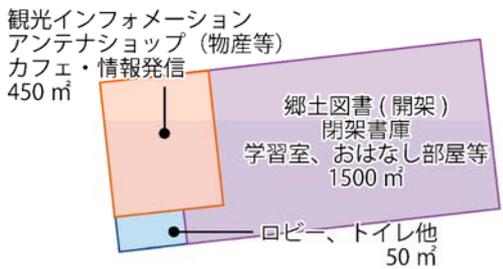
図書館 芭蕉翁記念館

★ オープン

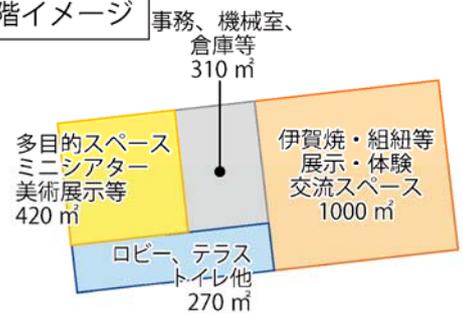
1-1案 (現南庁舎地) 新築 - (現図書館) 既存建物活用 (主案②)

北庁舎跡に複合施設を新築し、南庁舎は解体・除却する

2階イメージ



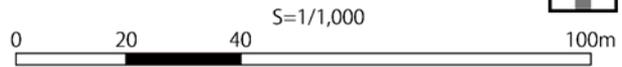
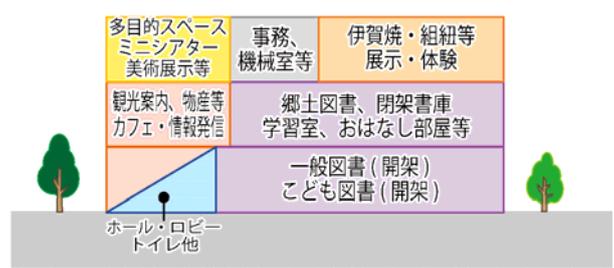
3階イメージ



1階イメージ



断面イメージ



現図書館を改修して、芭蕉翁記念館として活用する



1-い案 (主案②) 規模と整備費

北庁舎跡に複合施設を新築し、南庁舎は解体・除却する				
現図書館を改修して、芭蕉翁記念館として活用する				
<b>整備費概算</b>				
現敷地	配置公共施設	規模 (㎡)	駐車台数	事業費 (百万円)
庁舎	図書館 (複合)	6,000	約 240 台	新築 2,440
図書館	芭蕉翁記念館	1,678	約 60 台	改修 319
				合計 2,759

図書館 (複合)

施設名称	室名	室面積 (㎡)	面積合計	単価 (千円)	整備費 (百万円)
北庁舎跡に図書館新築	図書	3,040	各提言等からの面積 3,600㎡	JBCI(建築工事費調査)、日進市立図書館、ぎふメディアコスモス、岡崎市立中央図書館、他 320	1,386
	観光案内、物産、情報発信等	450		5	
	事務、機械室、廊下等	110		450	
	伊賀焼、組紐 展示・体験	1,000	各提言等からの面積 2,400㎡	JBCI(建築工事費調査)、青森市文化観光交流施設他事例 280	
カフェ等	260	5			
ミニシアター、美術展示等	420	450			
	共通共用	720	2,400㎡		
南庁舎解体			5,927㎡	三重県建設技術センター 30	178
				合計	2,440

芭蕉翁記念館

施設名称	室名	室面積 (㎡)	備考	単価 (千円)	整備費 (百万円)
現上野図書館 →芭蕉記念館に改修	展示	510	各提言等からの面積 1,678㎡	改修内容により変動 保存改修工事の事例分析(論文)、JBCI(建築工事費調査) 100	319
	交流・発信	490		5	
	書庫・学芸員室等 共用・サービス等	390 288		280	
用地買収					
				合計	319
				全合計	2,759

※整備費は単価の平均値と各施設面積により算出しています。

1-1 案 (主案②) 工程計画

北庁舎跡に複合施設を新築し、南庁舎は解体・除却する  
 現図書館を改修して、芭蕉翁記念館として活用する

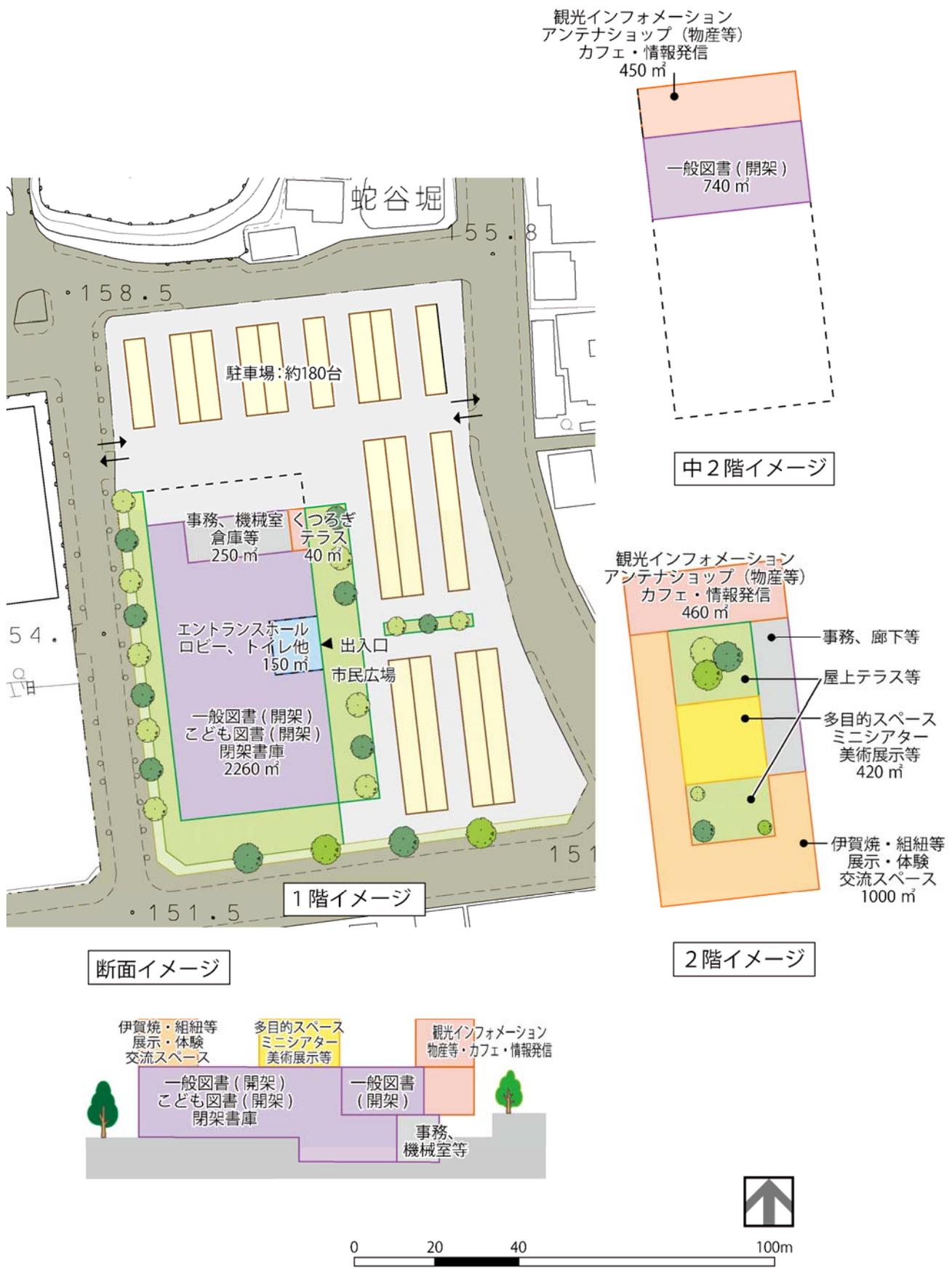
施設	内容	H28 年度	H 29 年度	H 30 年度	H 31 年度	H 32 年度	H 33 年度	H 34 年度
主な流れ		公共施設 基本計画			★新庁舎完成	← 合併特例債期限		
	現南庁舎	基本計画						
図書館 (複合)	基本設計							
	実施設計							
	機能移転							
	解体・除却							
	建設							
	引渡等							
	駐車場等							
現図書館	用地買収							
芭蕉翁 記念館	基本計画							
	基本設計							
	実施設計							
	機能移転							
	解体・除却							
	建設							
	引渡等							
	駐車場等							

庁舎の移転時期に影響されずに着工可能

新図書館完成後の機能移転期間が確保できないため、現図書館の休館又は機能移転が必要

2-あ案 (現南庁舎地) 既存建物活用 - (現図書館) 新築 (副案①)

南庁舎を改修して、複合施設として活用する



現図書館の隣接地に芭蕉翁記念館を新築し、図書館は解体・除却する



2-あ案 (副案①) 規模と整備費

南庁舎を改修して、複合施設として活用する				
現図書館の隣接地に芭蕉翁記念館を新築し、図書館は解体・除却する				
<b>整備費概算</b>				
現敷地	配置公共施設	規模 (㎡)	駐車台数	事業費 (百万円)
庁舎	図書館 (複合)	5,927	約 180 台	改修 1,850
図書館	芭蕉翁記念館	2,150	約 50 台	新築 835
				合計 2,685

図書館 (複合)

施設名称	室名	室面積 (㎡)	面積合計	単価 (千円)	整備費 (百万円)
南庁舎改修 →図書館として活用	図書	3,040	各提言等からの面積 3,600㎡	(公財)三重県建設技術センター・近代建築保存技術研究室	1,850
	観光案内、物産、カフェ、情報発信等	450			
	事務、機械室、廊下等	110			
	伊賀焼、組紐 展示・体験	1,000	各提言等からの面積 2,327㎡		
	観光案内、物産、カフェ、情報発信等	460			
	ミニシアター、美術展示等	420			
	共通共用	447			
合計				1,850	

芭蕉翁記念館

施設名称	室名	室面積 (㎡)	備考	単価 (千円)	整備費 (百万円)
現上野図書館隣に →芭蕉翁記念館新築	展示	510	各提言等からの面積 2,150㎡	JBCI(建築工事費調査)、 青森市文化観光交流施設 他事例	785
	交流・発信	490			
	書庫・学芸員室等	390			
	共用・サービス等	760			
現上野図書館解体			1,678㎡	30	50
用地買収					
合計					835

全合計	2,685
-----	-------

※整備費は単価の平均値と各施設面積により算出しています。

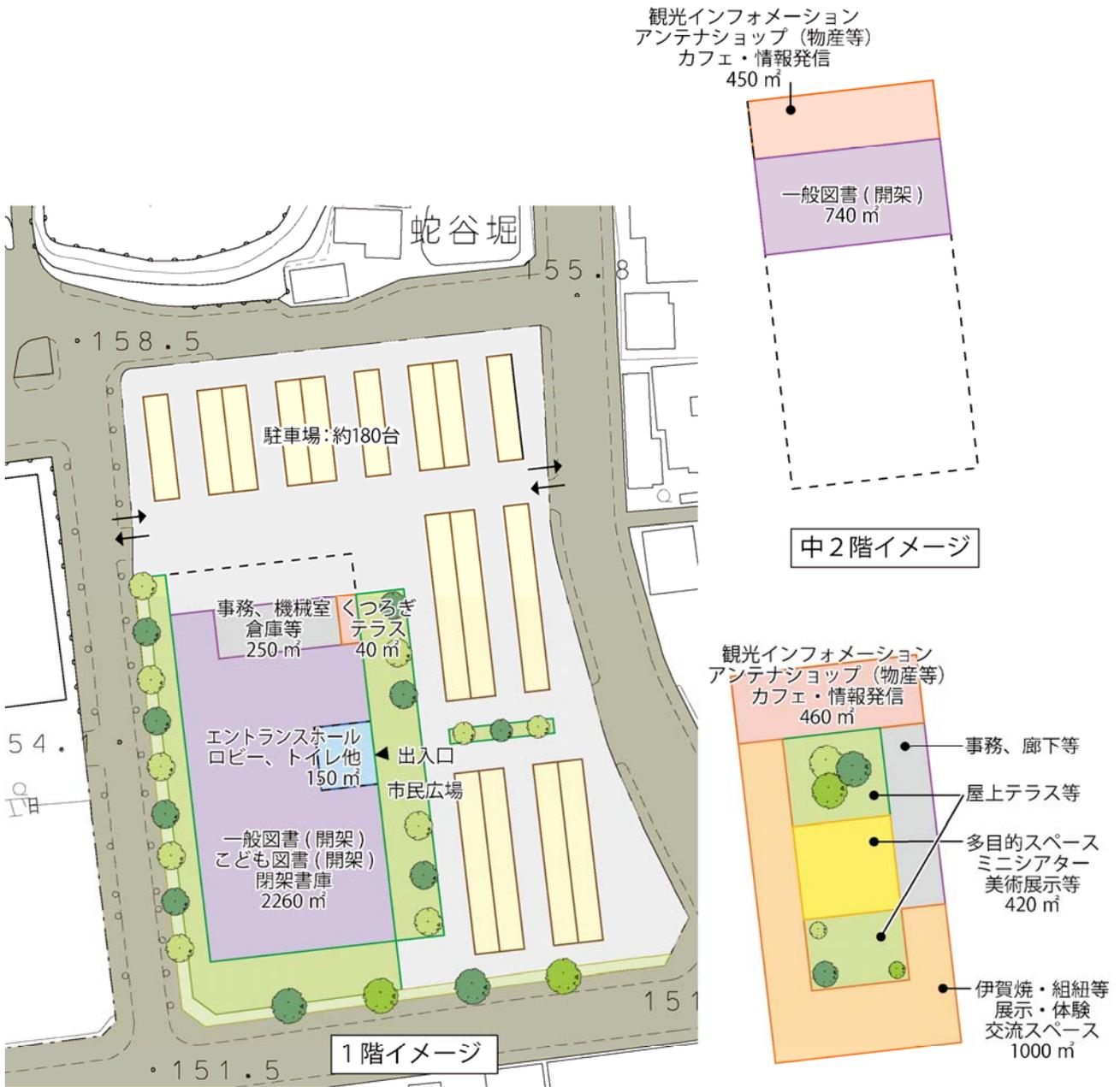
2-あ案 (副案②) 工程計画

南庁舎を改修して、複合施設として活用する  
 現図書館の隣接地に芭蕉翁記念館を新築し、図書館は解体・除却する

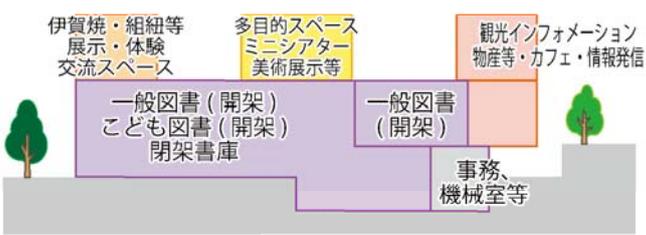
施設	内容	H28 年度	H 29 年度	H 30 年度	H 31 年度	H 32 年度	H 33 年度	H 34 年度
主な流れ	公共施設基本計画	■			★新庁舎完成	← 合併特例債期限		
現南庁舎	基本計画	■						
図書館 (複合)	基本設計		■					
	実施設計			■				
	機能移転		→■					
	解体・除却							
	建設				→■	改修		
	引渡等					引渡★		
	駐車場等						★オープン	
現図書館	用地買収	■	■	■				
芭蕉翁 記念館	基本計画	■						
	基本設計		■					
	実施設計			■				
	機能移転					■		
	解体・除却							
	建設				■	新築		
	引渡等					引渡★		
	駐車場等							■

2-1案 (現南庁舎地) 既存建物活用- (現図書館) 既存建物活用 (副案②)

南庁舎を改修して、複合施設として活用する



断面イメージ



現図書館を改修して、芭蕉翁記念館として活用する



2-い案 (副案②) 規模と整備費

南庁舎を改修して、複合施設として活用する				
現図書館を改修して、芭蕉翁記念館として活用する				
<b>整備費概算</b>				
現敷地	配置公共施設	規模 (㎡)	駐車台数	事業費 (百万円)
庁舎	図書館 (複合)	5,927	約180台	改修 1,850
図書館	芭蕉翁記念館	1,678	約60台	改修 319
				合計 2,169

図書館 (複合)

施設名称	室名	室面積 (㎡)	面積合計	単価 (千円)	整備費 (百万円)
南庁舎改修 →図書館として活用	図書	3,040	各提言等からの面積 3,600㎡	(公財)三重県建設技術センター・近代建築保存技術研究室	1,850
	観光案内、物産、カフェ、情報発信等	450			
	事務、機械室、廊下等	110			
	伊賀焼、組紐 展示・体験	1,000	各提言等からの面積 2,327㎡		
	観光案内、物産、カフェ、情報発信等	460			
	ミニシアター、美術展示等	420			
		共通共用	447		
				合計	1,850

芭蕉翁記念館

施設名称	室名	室面積 (㎡)	備考	単価 (千円)	整備費 (百万円)	
現上野図書館 →芭蕉記念館に改修	展示	510	各提言等からの面積 1,678㎡	改修内容により変動 保存改修工事の事例分析(論文)、JBCI(建築工事費調査)	319	
	交流・発信	490				100
	書庫・学芸員室等	390				5
	共用・サービス等	288				280
用地買収						
				合計	319	

全合計	2,169
-----	-------

※整備費は単価の平均値と各施設面積により算出しています。

2-1-1 (副案②) 工程計画

南庁舎を改修して、複合施設として活用する  
 現図書館を改修して、芭蕉翁記念館として活用する

施設	内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	
主な流れ	公共施設基本計画	[黒線]							
				★新庁舎完成					
現南庁舎	基本計画	[黒線]							
図書館(複合)	基本設計		[黒線]						
	実施設計			[黒線]					
	機能移転		[黒線]						
	解体・除却	改修の工程により仮庁舎への機能移転を要する場合があります							
	建設			[黒線]	[黒線]				
	引渡等					引渡★			
	駐車場等								
現図書館	用地買収								
芭蕉翁記念館	基本計画	[黒線]							
	基本設計		[黒線]						
	実施設計			[黒線]					
	機能移転		現図書館	[黒線]					
	解体・除却	新図書館完成後の機能移転期間が確保できないため、現図書館の休館又は機能移転が必要							
	建設			[黒線]	[黒線]				
	引渡等					引渡★			
	駐車場等								

← 合併特例債期限

大規模改修となるため工期にゆとりが必要

★オープン

★オープン